

《担当者名》○本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 桜庭聡 吉田彩華

【概要】

本講義は主にディプロマ・ポリシーに掲げられた「作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている」に対応した作業療法士の専門性を重視した内容となっている。

作業療法の対象となる各々の疾患のどのような特徴が身体機能・精神機能の障害を引き起こし、それが日常生活上の活動や参加にどのように影響し波及していくのかを学習する。同時にその解決策を自身の知識の中から模索する。

また、作業療法の治療に関わる内容として、各々の疾患に対する急性期・回復期・維持期のリスク管理と基本的な治療展開および技術を学習していく。

【学修目標】

【一般目標】

本講義の目的は、各疾患における作業療法の治療概念を理解することである。

【行動目標】

1. 各疾患における作業療法実施時のリスクを説明できる。
2. ICFを使用して、各疾患における作業療法の治療方針までの考え方を説明できる。
3. 各疾患における作業療法の治療に関する知識を説明できる。
4. 各疾患における作業療法の治療変化に対応できる考え方を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	脳卒中のエビデンスと予後予測	脳卒中治療ガイドラインに沿って、評価および治療の推奨レベルと予後予測を学ぶ。	本家寿洋
2			
3 }	脳血管障害の作業療法(1)	急性期における作業療法の治療を学ぶ。	本家寿洋
4			
5 }	脳血管障害の作業療法(2)	回復期・維持期における作業療法の治療を学ぶ。	本家寿洋
6			
7 }	脳血管障害の作業療法(3)	CI療法とクリニカルパス、リハビリテーション実施計画書について学ぶ。	本家寿洋 桜庭聡
8			
9 }	末梢神経損傷	末梢神経損傷の作業療法の治療を学ぶ。	桜庭聡
10			
11 }	骨折、腱板損傷の作業療法	骨折・腱板損傷の作業療法の治療を学ぶ。	桜庭聡
12			
13 }	腰痛・OA等の作業療法	腰痛・OA等の作業療法の治療を学ぶ。	坂上哲可
14			
15 }	COPDの作業療法	COPDの作業療法を学ぶ。	吉田彩華
16			
17 }	関節リウマチの作業療法	関節リウマチの作業療法の治療を学ぶ。	坂上哲可
18			
19	神経変性疾患の作業療法(1)	パーキンソン病の作業療法の治療を学ぶ。	吉田彩華

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
20			
21 22	神経変性疾患の作業療法(2)	脊髄小脳変性症と筋萎縮性側索硬化症の作業療法の治療を学ぶ。	本家寿洋
23 24	神経・筋疾患の作業療法	ギランバレー、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法の治療を学ぶ。	桜庭聡
25 26	脊髄損傷の作業療法	脊髄損傷の作業療法の治療を学ぶ。 特別講師：小渡充	本家寿洋
27 28	がんの作業療法	がんの作業療法の評価および治療を学ぶ。	本家寿洋
29 30	ICFを使用しての治療方法	ICFを使用して、評価の要約、目標、治療方針、治療プログラムまでのプロセスを学ぶ。	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%で評価する。定期試験結果は必ず自分で再学修し、疑問点、理解不足の点などを残さないように、自ら教員室に足を運び解決する努力をすること。

【教科書】

岩崎テル子 編 「身体機能作業療法学 第3版」 医学書院 2016年

【参考書】

道免和久 編 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」 医学書院 2013年
 上月正博 編 「新編 内部障害のリハビリテーション」 医歯薬出版 2015年
 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 編 「がんのリハビリテーションガイドライン」 2013年
 島崎寛将 他 編 「緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション」 中山書店 2014年
 西林保朗 監修 「リハ実践テクニック 関節リウマチ」 メジカルビュー社 2014年
 長崎重信 編 「作業療法ゴールドマスターテキスト4 身体障害作業療法学」 メジカルビュー社 2013年
 亀田メディカルセンター 編 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」 メジカルビュー社 2013年
 二瓶隆一 他 編 「頸髄損傷のリハビリテーション」 協同医書出版 2013年
 日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害」 協同医書出版 2014年
 大嶋伸雄 編 「身体障害領域の作業療法」 中央法規 2012年
 古川宏 編 「作業療法のとらえかた」 文光堂 2011年
 Peter G 著 金子唯史 翻訳 「エビデンスに基づく脳卒中後の上肢と手指のリハビリテーション」 2014年
 Anita Atwal 他 著 金子唯史 監修 「エビデンスに基づく高齢者の作業療法」 ガイアブックス 2014年
 Jill Cooper 編 三木恵美 他 監訳 「がんと緩和ケアの作業療法」 三輪書店 2013年

【学修の準備】

1. 基礎医学、臨床医学、これまで学んだ作業療法専門科目の知識が必要となる科目である。復習・再学修を怠らないこと。
 予習：授業内容の把握と事前学修 80分。復習：授業内容と1.に掲げた他の教科との照合、理解に80分。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士）坂上哲可（作業療法士）桜庭聡（作業療法士）吉田彩華（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、担当する講義を行う。